

話 型 対 照 表

神話		『糸満市の昔話』	日本昔話名彙	大成番号	日本昔話大成	日本昔話事典
1	アマミキヨとギジムナー	伝説				
2	稲の始まり					
3	五穀の始まり					
4	大力のイツカンウエーブーと ジョウサグンウエーブー					
5	糸満の地名由来					
6	暁城の名の由来					
7	与那原の綱引由来					
8	小波蔵の綱引由来					
9	阿波根の飯石の由来					
10	金の砥石					
11	フチャギ餅の由来					
12	左御紋の始まり					
13	火返し（ヒーゲーシ）御願					

14	七月お盆の始まり			
15	位牌の由来			
16	ニービチ由来(イ)			
17	ニービチ由来(ロ)			
18	伊原の喜納ワタブトウの土地分け			
19	糸満のヒーダチ御願			
20	ユードレ墓の由来			
21	波平玉川の由来			
22	遊女墓の由来			
23	真玉橋の人柱(イ)	長柄の人柱	本格新四六	長柄の人柱
24	真玉橋の人柱(ロ)	長柄の人柱	本格新四六	長柄の人柱
25	真玉橋の人柱(ハ)	長柄の人柱	本格新四六	長柄の人柱
26	白銀堂由来(イ)	話千両	五二二	話千両
27	白銀堂由来(ロ)	話千両	五二二	話千両
28	普天間権現由来			
29	運天港由来			
30	婿入り橋の由来			
史 譚				
31	かぎやで風節			
32	北谷王子と黒鉄座主(イ)			

33	北谷王子と黒鉄座主(ロ)			
34	京阿波根親方(イ)			
35	京阿波根親方(ロ)			
36	内間金丸			
37	大里嘉手志川と金屏風			
38	網の始まり			
39	名護親方と具志頭親方(イ)	聴耳	一六四C	聴耳
40	名護親方と具志頭親方(ロ)			
41	名護親方と具志頭親方(ハ)			
42	名護親方と具志頭親方(ニ)			
43	名護親方と具志頭親方(ホ)			
44	米須按司の敵討ち			
45	瓦屋情話			
46	吉屋チル			
47	チャタンモーシー			
48	仲村渠マカトウ			
本格昔話				
49	天人女房	天人女房	一一八	天人女房
50	ハブ簞入	蛇簞入	一〇一A	蛇簞入・芋環型
51	アカマタ簞入(イ)(浜下り由来)	蛇簞入	一〇一A	蛇簞入

52	アカマタ簀入(ロ)(普天間権現由来)	蛇簀入	一〇一A	蛇簀入・苧環型	蛇簀入
53	睡次郎	隣の寝太郎	一二六	鳩提灯	隣の寝太郎
54	難題簀(熱田のマーシリー)	難題簀	一三〇	謎解簀	謎解き簀
55	ウールンチブシ	難題簀	一三〇	謎解簀	謎解き簀
(勝連按司の難題・アガデーガマ由来)					
56	継子話(麦搗き・二十日月)				
57	継子の味噌弁当				
58	継子の毒入り弁当				継子と弁当
59	継子話(蓑と七重ね毛)	米理糠埋	二〇五B	米理糠埋	米理糠埋
60	継子とみみず				
61	継子台				
62	継子話(チバナより痛い)				
63	兄弟の仲直り(イ)	兄弟の仲直り	一八二	兄弟の仲直り	兄弟の仲直り
64	兄弟の仲直り(ロ)	兄弟の仲直り	一八二	兄弟の仲直り	兄弟の仲直り
65	仲順流り(イ)	孫の生肝・三夫婦型	本格新一	孫の生肝・三夫婦型	孝子と金瓶
66	仲順流り(ロ)	孫の生肝・三夫婦型	本格新一	孫の生肝・三夫婦型	孝子と金瓶
67	仲順流り(ハ)	孫の生肝・三夫婦型	本格新一	孫の生肝・三夫婦型	孝子と金瓶
68	仲順流り(ニ)	孫の生肝・三夫婦型	本格新一	孫の生肝・三夫婦型	孝子と金瓶
69	大年の客	猿長者	一九七	猿長者	大年の客
70	猿長者	猿長者	一九七	猿長者	猿長者
71	泥棒の恩返し	大年の客	一九七		

72	鬼餅由来(イ)	妹は鬼	二四九	妹は鬼	妹は鬼
73	鬼餅由来(ロ)	妹は鬼	二四九	妹は鬼	妹は鬼
74	鬼餅由来(ハ)	妹は鬼	二四九	妹は鬼	妹は鬼
75	鬼の家の便所	妹は鬼	二四九	妹は鬼	妹は鬼
76	クスケー由来				
77	ハジチ由来				
78	姥捨山(イ)(柴折り・難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
79	姥捨山(ロ)(柴折り・薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
80	姥捨山(ハ)(馬の親子)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
81	ハブの昇天				竜の秘密
82	フカに助けられた男				
83	武士と肥やし				
84	唐商 トイアチネ いよか糠商 ヌカアチネ い	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
85	モーイ親方(イ)(勉強・煙草は一回・嫁取り・薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
86	モーイ親方(ロ)(勉強・薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
87	モーイ親方(ハ)(嫁取り・薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
88	モーイ親方(ニ)(薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
89	モーイ親方(ホ)(薩摩の難題)	姥棄山	五二三A	親棄山	姥棄て山
90	モーイ親方(ヘ)(打たぬ太鼓・灰縄)	姥棄山	五二四	殿様の難題II打たぬ太鼓	打たぬ太鼓
91	モーイ親方(ト)(嫁取り)	姥棄山	五二四		

92	モ－イ親方(チ)(嫁取り)			
93	モ－イ親方(リ)(煙草は一回)			
94	モ－イ親方(ヌ)(勉強)			
95	モ－イ親方(ル)(年若い馬・煙草は一回)			
96	モ－イ親方(ヲ)(草履と下駄)			
97	モ－イ親方(ワ)(小便の罰金)			
98	モ－イ親方(カ)(出たものは切る)	六一四	出たものは切る	出たものは切る
99	モ－イ親方(ヨ)(卵割り・出るか入るか)			
100	モ－イ親方(タ)(ヌブシの玉)			
101	モ－イ親方(レ)(マブイの恩返し)			
102	モ－イ親方(ソ)(三本の矢)			
103	モ－イ親方(ツ)(親方の最期)	聴耳 一六四C	聴耳	聴耳
因縁・化物譚				
104	生き返った大屋のアヒトウ			
105	後生戻りの話			
106	ナーチャミー由来(イ)			
107	ナーチャミー由来(ロ)			
108	子育て幽霊	子育て幽霊 一四七A	子育て幽霊	子育て幽霊
109	シバサシ由来			
110	平良シカマグチ	子育て幽霊 一四七A	子育て幽霊	子育て幽霊

111	逆立ち幽霊			
112	国吉坂の遺念火			
113	遺念火の話			
114	識名橋の幽霊マジムン			
115	キジムナーと友達(イ)			
116	キジムナーと友達(ロ)(名嘉地大屋)			
117	キジムナーと友達(ハ)(名嘉地大屋)			
118	キジムナーと友達(ニ)(ムーチー汁)			
119	キジムナーと友達(ホ)(我那覇大屋)			
120	坊さんと猫			
笑話				
121	ナヴァーグワ－の知恵(イ)(尻拭き)			
122	ナヴァーグワ－の知恵(ロ)(食い逃げ)			
123	山原と団亀			
124	糸満の女は男勝り			
125	渡嘉敷ペーク－(イ)(十日月・嘘の名人)	癖をやめる賭 四九四	嘘の名人	癖をやめる賭
126	渡嘉敷ペーク－(ロ)(十日月)	五七七	褒美の片荷	褒美の片荷
127	渡嘉敷ペーク－(ハ)	五七七	褒美の片荷	褒美の片荷
	(王様と碁・米俵・着物)			

128	渡嘉敷ペークー(二) (王様と碁・米俵・味噌)		五七七	褒美の片荷	褒美の片荷
129	渡嘉敷ペークー(ホ) (低頭門・米俵・相撲)		五七七	褒美の片荷	褒美の片荷
130	渡嘉敷ペークー(ヘ) (煙草は一回)				
131	渡嘉敷ペークー(ト) (塩がうまい・低頭門)				
132	渡嘉敷ペークー(チ) (屋根の葺き替え)				
133	渡嘉敷ペークー(リ) (競馬)				
134	渡嘉敷ペークー(ヌ) (ル力島返し)				
135	津堅バーマー (十日月・屋根の葺き替え)				
136	糸満マギー(イ) (あそこは人並み)				
137	糸満マギー(ロ) (山原船)				
138	糸満マギー(ハ) (帆柱)				
139	糸満マギー(ニ) (寿命)				
140	糸満マギー(ホ) (足跡)				
141	保栄茂タルチー(イ) (力比べ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
142	保栄茂タルチー(ロ) (力比べ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
143	保栄茂タルチー(ハ) (妹の大力・力比べ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
144	保栄茂タルチー(ニ) (仕事は弁当)	力くらべ	五九〇	仕事は弁当	仕事は弁当
145	保栄茂タルチー(ホ) (牛抱え・ 仕事は弁当)	力くらべ	五九〇	仕事は弁当	仕事は弁当

146	保栄茂タルチー(ヘ) (山原船)	力くらべ	五〇四	力比べ	力比べ
147	保栄茂タルチー(ト) (保栄茂の最期)				
148	保栄茂タルチー(チ) (保栄茂の崇り)				
149	保栄茂ユーチー (仕事は弁当・牛抱え・最期)	力くらべ	五〇四 五九〇	力比べ 仕事は弁当	力比べ 仕事は弁当
150	文徳マサー(イ) (空手の修行)				
151	文徳マサー(ロ) (空手の修行)				
152	文徳マサー(ハ) (藁綱い)				
153	文徳マサー(ニ) (大力)				
154	文徳マサー(ホ) (足型・天井蹴り)				
155	文徳マサー(ヘ) (力比べ)				
156	アガリ武士の力比べ(イ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
157	アガリ武士の力比べ(ロ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
158	アガリ武士の力比べ(ハ)	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
159	サクマエバーの大力				
160	ガネクダクローの強力譚	力くらべ	四八〇	仁王と賀王	力比べ
161	名城ヘンサの早足				
162	雀孝行(イ)	雀孝行	四七A	雀孝行	雀孝行
163	雀孝行(ロ)	雀孝行	四七A	雀孝行	雀孝行

鳥獣草木譚

164	雀孝行(ハ)	雀孝行	四七A	雀孝行	雀孝行
165	雨蛙不孝	雨蛙不孝	四八	鳶不孝	雨蛙不孝
166	雀酒屋	雀酒屋			雀酒屋
167	十二支由来(イ)	十二支の由来	十二	十二支の由来	十二支の由来
168	十二支由来(ロ)	十二支の由来	十二	十二支の由来	十二支の由来
169	猿の生き肝	猿の生き肝	三五	猿の生き肝	海月骨なし
170	犬の脚	犬の脚	六三	犬の脚	犬の脚
世間話					
171	キジムナーの胸押え(イ)				
172	キジムナーの胸押え(ロ)				
173	キジムナー封じ				
174	兼城のカマロー				
175	遺念火と相撲				
176	煙草は吸うもの				
177	マザーデーに出会った話				
178	ヨウドレの由来				
対訳資料					
179	人の始まり				
180	稲の始まり				

181	犬の見つけた井戸	蛇簀入	一〇一A	蛇簀入・苧環型	蛇簀入
182	与座の名の由来	難題簀	一三〇	謎解簀	謎解き簀
183	慶留 ^{ぎる} バーリーの祭り	大年の客	一九七	猿長者	猿長者
184	米須按司の敵討ち	大年の客	一九七	猿長者	猿長者
185	アカマタ簀入(浜下り由来)	和尚と小僧	五二一	殿様と小僧	殿様と小僧
186	難題簀(二つの馬に鞍一つ)				
187	猿長者(イ)				
188	猿長者(ロ)				
189	安里の童 ^{わらわ}				
190	モイ親方(ヌブシの玉・勉強)				
191	キジムナーと友達				
192	名嘉地大屋とギジムナー				
193	渡嘉敷ペーケー				
(十日月・味噌・競馬・米俵)					
194	雀孝行	雀孝行	四七A	雀孝行	雀孝行
195	アヒラーマジムン				

語り手一覧

地区名	氏名	生年月日	地区名	氏名	生年月日
糸満	金城 修治	明治二七・四・八	武富	具志堅朝太	大正五・二・一〇
田場 天龍	明治三〇・二・四	上原 カツ子	大正五・三・一〇	上原 カツ子	大正五・三・一〇
新垣 キヨ	明治三三・三・一〇	久高 光	大正五・一〇・五	久高 光	大正五・一〇・五
上原 亀三	明治三八・五・八	伊敷 牛助	大正六・三・五	伊敷 牛助	大正六・三・五
金城 金三	明治三八・六・一二	上原 ヒデ	大正七・八・一〇	上原 ヒデ	大正七・八・一〇
玉城 マシ	明治三八・八・八	野原 由宗	大正七・八・一三	野原 由宗	大正七・八・一三
上原 牛蔵	明治三八・八・一五	上原 皓吉	大正七・八・一五	上原 皓吉	大正七・八・一五
大武 カナ	明治三九・四・一〇	上原 徳助	大正八・七・二三	上原 徳助	大正八・七・二三
上原 亀広	明治四〇・一・一〇	大城 英次	大正九・一・二六	大城 英次	大正九・一・二六
上原 セキ	明治四〇・六・一二	上原 亀吉	大正一二・三・四	上原 亀吉	大正一二・三・四
上原 カメ	明治四一・七・一六	稲嶺 盛亀	大正一二・四・一	稲嶺 盛亀	大正一二・四・一
照谷 佐代子	明治四一・一二・九	上原 ツル	大正一二・六・六	上原 ツル	大正一二・六・六
上原 新助	大正一・一二・二五	国場 秀子	大正一二・一〇・三〇	国場 秀子	大正一二・一〇・三〇
稲嶺 キク	大正一・一二・二四	玉城 初子	大正一四・一二・一九	玉城 初子	大正一四・一二・一九
糸数 オトミ	大正二・二・一〇	稲嶺 盛春	大正一五・一一・一五	稲嶺 盛春	大正一五・一一・一五
金城 安彦	大正二・七・五	長嶺 サト	昭和 三・三・七	長嶺 サト	昭和 三・三・七
上原 加州男	大正四・九・二		明治三七・一〇・一〇		明治三七・一〇・一〇

大城 トミ	明治四〇・一〇・二四	賀数	島根 茂治	大正一二・一一・四
金城 ヤス	明治四二・五・三	賀数	大城 政秀	明治三八・四・八
大城 キヨ	明治四四・八・一七	賀数	新田 繁一	明治四二・二・二三
大城 スミ	大正二・一・二五	賀数	杉本 節子	明治四二・九・二五
長嶺 長行	大正二・四・四	賀数	大城 美代	明治四三・二・一〇
長嶺 京子	大正二・八・八	賀数	照屋 亀八	明治四四・七・一〇
長嶺 陽元	大正二・一一・五	賀数	中野 トミ子	明治四五・四・五
長嶺 和男	大正三・六・八	賀数	大城 キク	大正二・一一・一〇
長嶺 トミ	大正三・六・二一	賀数	大城 清吉	大正三・二・一〇
長嶺 悦子	大正七・七・一一	賀数	大仲 静	大正三・六・一〇
長嶺 豊子	大正一一・六・一五	賀数	新田 トシ	大正五・六・二
大城 清助	明治四〇・一二・六	賀数	大城 安子	大正五・一一・二二
当銘 キヨ	明治四三・六・四	賀数	大城 善英	大正九・三・二〇
賀数 長安	明治四三・一〇・六	賀数	徳山 よし子	大正一二・三・二〇
大城 正太郎	大正五・一・八	賀数	百次 仁助	大正五・二・四
平田 徳太	明治三七・九・二九	兼潮平	城島 豊正	明治四〇・八・一〇
平田 文子	明治四三・六・一五	兼潮平	大城 幸亀	明治四二・七・一〇
永嶺 仙助	明治四四・五・四	兼潮平	金城 文	大正一・八・一
新崎 盛伸	大正四・一二・五	兼潮平	新垣 登一	大正三・五・一八
島根 良政	大正五・四・一〇	兼潮平	大城 キヨ	大正四・一〇・二六
山内 昌朝	大正六・九・一七	兼潮平	大城 善幸	大正五・一・一〇

宮里	玉城	宮里	宮里	宮里	島袋	金城	仲谷	伊礼	神谷	照屋	安谷屋源助	照屋	照屋	大城	喜納	金城	金城	名嘉真朝昌	金城	大城	喜納	大城	喜納
ウツ	フミ	カメ	一郎	仁栄	武太	亀栄	カメ	ハル	ハル	トキ	寛吉	寛文	加那	カメ	苗	ヒデ	朝昌	カナ	テル	サト			
大正三・一〇・一三	大正三・一二・一二	大正四・六・八	大正九・一・三	大正一〇・一一・二〇	大正一一・一・一六	明治三四・一一・八	明治三九・一〇・一二	大正七・三・一五	大正七・八・一五	大正八・三・二〇	大正一〇・一二・一五	大正一四・一〇・一五	明治三三・五・一二	明治四〇・四・五	明治四三・四・一五	明治四三・八・一〇	明治四四・一一・一	大正一・一二・一〇	大正四・一二・一〇	大正五・三・一〇			
新垣	大城	上江洲	山城	宮里	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城	金城
清三郎	ヨシ	安景	栄正	栄吉	栄吉	常雄	テル	常雄	テル	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正	守正
大正五・一二・二五	明治四二・一〇・二〇	明治四三・九・八	明治四三・一一・二〇	明治四四・一一・三〇	大正二・一・三〇	大正二・一〇・二八	大正四・二・一一	大正五・三・一〇	大正七・一・一〇	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一	大正七・四・一一

徳田	与儀	上江洲	金城	前川	赤嶺	新家	伊集	金城	国吉	国吉	国吉	久手堅	仲井真盛	賀数	賀数	城間	金城	伊敷	金城	伊敷	伊敷	伊敷	伊敷
幸五郎	ウツ	由豊	カメ	次郎助	時子	次郎	守良	カマド	マカト	マツ	マツ	憲吉	盛幸	カメ	カメ	ウシ	美智子	松助	幸徳	弘吉			
大正六・七・二	明治四〇・二・一五	明治四一・五・一九	明治四四・二・一〇	大正四・七・二〇	大正五・八・一五	大正八・五・二五	明治三四・一二・二九	明治三六・八・一五	明治四一・一二・二五	大正三・一・七	大正三・九・一	大正一一・三・三一	大正一四・二・一〇	明治三七・八・五	明治三八・一二・二〇	大正四・六・二八	大正五・五・二五	大正五・六・二〇	大正八・四・七	大正八・七・二三			
賀数	賀数	伊敷	山城	大湾	上原	翁長	金城	徳里	金城	宮里	宮里	宮城	金城	伊敷	大城	徳里	前原	玉城	比嘉	長嶺			
クメ	清喜	清保	スエ	朝次郎	アキ	文字	正勝	ハル	カメ	カメ	カメ	正全	タル	三郎	ウシ	実盛	タツ	亀雄	スエ	富			
大正八・一〇・八	大正九・八・五	大正一〇・三・一七	大正一三・二・九	明治二七・二・五	明治四二・六・九	大正二・二・二〇	大正五・一・七	大正五・一〇・二〇	明治三一・六・一二	明治三三・八・一〇	明治三三・一一・一一	明治三五・一・九	明治三七・三・五	明治三八・五・五	明治三九・一二・二五	明治四〇・七・二八	明治四四・八・一四	明治四四・一〇・九	大正一・一二・二九	大正三・一・二一			

渡口 広	前門 京子	川門 信義	並里 武吉	新屋 力メ	新屋 アキ	新屋 タカ	仲門 銀助	阿佐慶正男	志茂 嘉一	仲門 用三	伊保 三郎	伊保 守吉	金城 宏栄	平田 金徳	伊集 盛亀	玉城 トミ	神里 ヒデ	玉城 真吉	玉城 スミ	外間 力メ
大正 六・六・一〇	大正 八・一二・二八	大正 九・一二・二八	大正 一〇・一〇・三〇	明治 四四・八・一〇	大正 三・八・三	大正 四・六・一七	大正 五・五・二六	大正 五・九・五	大正 七・三・一八	大正 八・五・八	明治 三四・一二・二三	明治 四四・一二・一	明治 四二・一一・五	明治 四三・七・一四	大正 一・一〇・一五	大正 一・一二・一〇	大正 一・一二・二三	大正 三・五・六	大正 四・二・一〇	大正 四・一〇・三〇
山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城	山城
伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原	伊原
山城 アキ	山城 登吉	山城 正	山城 キヨ	山城 盛栄	山城 トシ	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治	山城 昭治
大正 六・三・三	大正 六・一〇・一〇	大正 六・一二・一〇	大正 七・七・五	大正 一・九・七	大正 一・一二・一一	明治 四三・二・三	大正 二・二・一九	明治 四一・九・四	明治 四四・五・六	明治 四四・一二・一〇	明治 四五・六・一八	大正 三・一・一〇	大正 三・五・二〇	大正 四・九・二〇	大正 五・一二・三二	大正 六・一二・一九	大正 八・八・一三	明治 四三・五・二五	明治 四三・五・二五	明治 四三・五・二五

"	"	"	"	"	南波平	"	"	"	"	"	"	糸洲	"	"	"	"	小波蔵	"	"	"
山城 龜六	伊集 朝助	山城 カナ	伊集 スエ	山城 善助	山城 光栄	中村 光一	照屋 フミ	中村 カツ	照屋 光子	吉嶺 タマネ	中村 カメ	神里 カマ	伊敷 フチ子	奥間 ヨシ	伊敷 カミ	伊敷 ヨシ	伊敷 ナエ	新垣 栄蔵	新垣 亀栄	伊敷 義光
大正九・二・二	大正五・四・二四	大正四・四・五	大正二・一〇・一〇	明治三九・一〇・二五	明治三八・一〇・八	大正八・一〇・二七	大正六・三・一〇	大正五・八・三〇	大正五・三・六	大正一・九・二〇	明治四五・三・一八	明治三五・六・二八	大正一一・二・一	大正四・五・六	大正三・八・一三	明治四四・一〇・一〇	明治四三・三・八	大正一一・二・二九	大正二・五・一〇	明治四〇・四・二〇
"	"	"	"	"	"	"	福地	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	東里	"
酒屋 カメ	川門 善吉	上良 正光	殿内 三吉	大城 タツ	並里 タケ	新垣 トキ	川門 カメ	上良 キヨ	上良 ヒデ	志茂 トシ	佐久真 ミヨ	下田 ミツ	佐久真 フジ	上良 武定	佐久真 カメ	西前 トヨ	上良 徳栄	玉城 ハル	玉城 佐一郎	山城 秀吉
大正六・六・五	大正三・一二・一九	大正三・六・一五	大正三・三・一五	大正二・一〇・一五	明治四五・二・一〇	明治四三・三・六	明治四〇・二・八	昭和二・二・二	大正一二・五・一五	大正一一・一〇・一〇	大正一〇・一〇・一〇	大正一〇・三・三	大正八・二・三	大正六・三・一〇	大正五・五・一七	大正三・三・二	明治四四・二・六	明治四三・一二・二〇	明治三八・一二・二九	大正一一・一二・一

採訪者名簿

〈第一回調査〉昭和六十二年八月六日～八日

福田 晃（指導教授）

内間 弘・金城 善（糸満市役所総務部企画開発課）

伊芸弘子（那覇市教育委員会）

松本孝三・原田信之・矢田敬子・村上美登志

中村 史・桑原真広・小林基裕・和田雅裕

吉本哲也・守時早苗

〈第四回調査〉平成三年八月十一日～十二日

福田 晃（指導教授）

金城 善（糸満市役所総務部企画開発課）

松本孝三・原田信之・中村 史・和田雅裕

藤井佐美・山本 淳・黒田孝博・足立安子

〈補足調査〉平成七年八月八日～九日

松本孝三

〈第二回調査〉昭和六十三年八月四日～六日

福田 晃（指導教授）

金城 善（糸満市役所総務部企画開発課）

狩俣恵一・松本孝三・原田信之・小仲敬子

村上美登志・中村 史・和田雅裕・藤井佐美

守本泰之・山本 淳

翻字者名簿

松本孝三・村上美登志・中村 史・和田雅裕

藤井佐美・二本松康宏・濃野元子・山本 聡

松井 清・山本 淳・黒田孝博・中森 司

三輪一雅・藤原和典・渡辺亮一・足立安子

徳永とも子・中村宏美・舩木恵美・大谷賢司

木村ユキ・武田佳子・宗形英恵・原田恵一

〈第三回調査〉平成元年七月三十一日～八月一日

福田 晃（指導教授）

金城 善（糸満市役所総務部企画開発課）

あとがき

わたくしどもの沖縄における昔話の合同調査は、昭和四八年八月の与勝諸島よりはじめて二十余年、国頭から島尻に及ぶ沖縄諸島、池間・伊良部・来間・多良間を含む宮古諸島、石垣から波照間に至る八重山諸島と、大雑把ながらほぼ沖縄全体に及んで、ようやくその終熄の時期を迎えつつあった。そんな矢先に伊芸弘子さんから糸満市をやつてはとのお誘いを受けた。たまたま糸満市は壮大な市史編纂を企画されており、その民俗編の民話担当を伊芸さんがつとめておられたからであつた。すでにわたくしどもは、昭和五四年から三ヶ年間、同島尻郡の具志頭村・大里村・玉城村の昔話調査を実施しており、そのなかで、しばしば苛烈な沖縄戦の体験をうかがい、時にはわれわれの調査の無神経さにお叱りを受けることもあつた。したがって、沖縄戦最後の激戦地・糸満市に調査の鉤を入れることは躊躇されていたのである。しかるに伊芸さんを通して糸満市がわたくしどもの調査を積極的に受け入れてくださるというのであり、まことにありがたいことであつた。

その昔話のフィールド調査は、昭和六十二年八月、まずは糸満市・市役所総務部企画開発課広報統計係（市史編集担当）が主体となつて進められた。わたくしは、調査に参加する立命館大学説話文学研究会の会員に、近刊の仲宗根政善氏編『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』（角川書店）の講読を誘め、自分も再読して糸満市に赴いた。そのせいであろうか、調査の聚落に至る車は、白昼ながらも白骨の道を述るように思われてならなかつた。そしてその道は瓦礫の聚落に至るはずであつた。ところが、わたくしどもが訪ねた各聚落は緑の樹木に覆われて、おだやかであつた。しかもわたくしどもを迎え入れたご老人たちは、いずれも苛酷な体験を持ちながら、あえてそれは秘めて、静かに遠い昔のチティ話を語られるのである。それはまさに苛烈な戦さを耐え抜いたコトバの文化というべきものであつた。

た。爾来、四ヶ年に及んだ調査で老人たちが語られた昔話類は六七九話。そこから一九三話を選んで本書は成っている。つまり、本書「糸満市の昔話」は、糸満市とわたくしどもが赤い糸に結ばれて成った文化財であり、糸満の人々の戦争を乗り越えたコトバの珠玉の集であるということである。ただ惜しまれるのは、すべてをシマクチで残せなかったことであるが、それらはわたくしどもの限界としてお許しをいただくほかない。

ともかく糸満市企画開発課・同教育委員会とわたくしどもとの協同によって、本書の刊行までに漕ぎ付け得たことをたいへんありがたく思う。改めて関係諸機関にお礼を申し上げたい。特に直接お世話をいただいた前教育長・新垣博氏、現教育長金城正徳氏をはじめとする教育委員会のみなさん、そして最初から最後まで主体的に協力された前文化課文化係長の金城善氏、最後のまとめにご苦勞をおかけした現文化課係長の上原善明氏に対し、深甚なる敬意を表する次第である。

平成八年三月

立命館大学教授 福田 晃

沖縄・糸満市の昔話

一九九六年三月二十九日 発行

編集 立命館大学説話文学研究会

京都市北区等持院北町五八の一

立命館大学文学部

福田 晃教授研究室内

発行 糸満市教育委員会

沖縄県糸満市字糸満二〇五七番地

印刷 糸満印刷

沖縄県糸満市字糸満二〇八二番地